

# YP-800

NATURAL SOUND SYSTEM  
DIRECT DRIVE PLAYER MODEL YP-800  
GUIDE MANUAL

ヤマハダイレクトドライブステレオレコードプレーヤーシステム  
取扱説明書



## ●ご挨拶

このたびはヤマハステレオレコードプレーヤーYP-800をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。YP-800はダイレクトドライブ方式の最高級ターンテーブルとすぐれたトレーシングアビリティーをもつ高感度トーンアーム、共振を抑えた堅牢なキャビネットで構成され、加えて定評あるアメリカシュアー社の最新カートリッジM75EM TYPE 2を装備した高級プレーヤーシステムです。YP-800を長年にわたってお使いいただくため、この取扱説明書をご使用の前に是非お読みくださいますよう、お願いいたします。

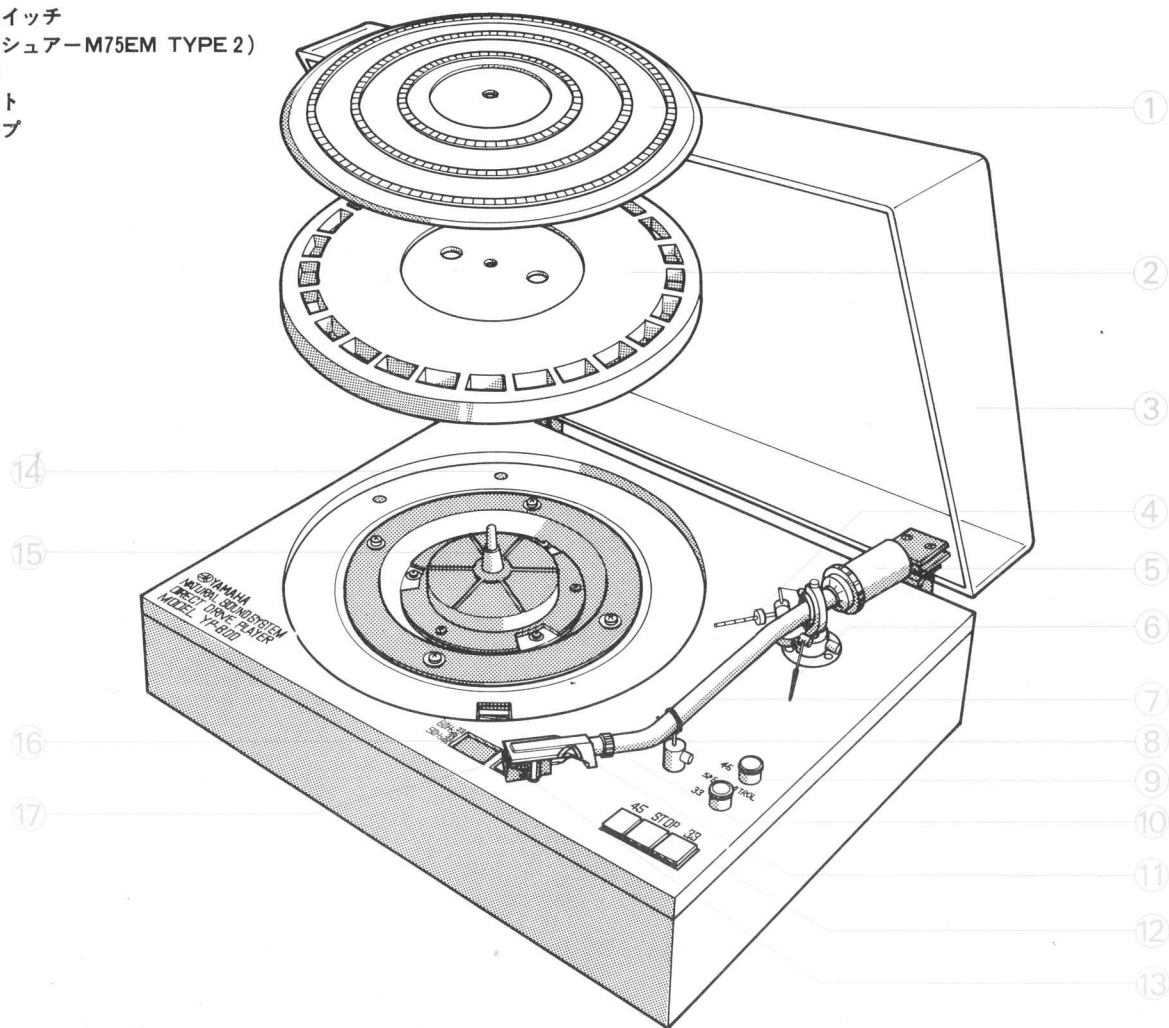
## ●目次

プレーヤー各部の名称	3
規格・トーンアーム梱包図	4
特長・ご使用になる前に	5
プレーヤーの組立	
輸送用固定ネジの取外し	6
ターンテーブルの取付け	7
水平調整と水準器について	7
トーンアームの組立	
トーンアーム各部の名称	8
トーンアームの組立	8
トーンアームの調整	
トーンアームの高さ調整	10
トーンアームのバランス調整	10
針圧調整	11
インサイドフォースキャンセラーの調整	11
アームリフターの使いかた	12
オーディオアンプへの接続	13
ターンテーブルのスピード調整	13
レコード演奏のしかた	14
他のカートリッジを使う場合	14
針先の寿命と交換のしかた	15
故障と思われる時には	16
サービスのご依頼について	17

YP-800CLにはカートリッジシュアーM75EM TYPE 2は付属していません。

## プレーヤー各部の名称

- ① ゴムシート  
(センタープレートの保護ビニール)  
(は、使用時に取除いてください。)
- ② ターンテーブル
- ③ アクリルカバー
- ④ インサイドフォースキャンセラー
- ⑤ メインウエイト
- ⑥ アームリフター
- ⑦ トーンアーム
- ⑧ アームレスト
- ⑨ スピード調整ツマミ
- ⑩ ヘッドシェルロックナット
- ⑪ ヘッドシェル
- ⑫ スピード切換スイッチ
- ⑬ カートリッジ (シュアー-M75EM TYPE 2)
- ⑭ 輸送用固定ネジ
- ⑮ センターシャフト
- ⑯ ストロボスコープ
- ⑰ 水準器



## 規格・トーンアーム梱包図

### ●規格

#### ■フォノモーター部

駆動方式……………ダイレクトドライブ  
 モーター……………DCサーボモーター(12極24スロット, ブラッシュレス)  
 ターンテーブル……………31cmアルミダイキャスト(重量 2kg)  
 回転数…………… $33\frac{1}{3}$ , 45rpm 2スピード  
 回転数調整範囲…………… $\pm 3\%$ , 各回転数独立調整  
 SN比……………60dB以上  
 ワウフラッター(WRMS)……………0.03%以下

#### ■トーンアーム部

形式……………S字型スタティックバランス方式  
 実効長……………242mm  
 オーバーハング……………15mm  
 針圧調整機構……………針圧直読方式・0~3g(0.1gステップ)  
 取付カートリッジ自重範囲……………3~24g  
 ヘッドシェル……………アルミダイキャストシェル, 交換可(EIA規格)  
 アームリフター……………ハイドロリックピストンレバー方式  
 インサイドフォースキャンセラー  
 ……………カウンターバー & ローラースtring方式

#### ■カートリッジ部

形式……………MM型・シュアーM75EM TYPE 2  
 針先……………0.2×0.7mil・ダイヤモンド  
 交換針……………シュアーN75-ED TYPE 2

適正針圧……………1.25g(0.75~1.5g)  
 重量……………6.0g  
 最適負荷抵抗……………47k $\Omega$   
 出力電圧……………4mV

#### ■付属機構

水準器……………パネル埋込み  
 ミラー式ストロボコープ……………パネル埋込み  
 アクリルカバー……………脱着可・フリーストップヒンジ付  
 大型インシュレーター……………高さ調整可能

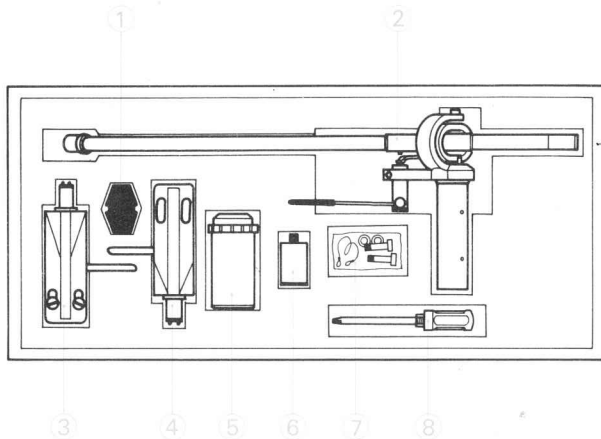
#### ■総合

供給電源……………AC100V・50/60Hz  
 消費電力……………6W  
 外形寸法……………481(W)×175(H)×371(D, +21ヒンジ)mm  
 重量……………12kg

#### ■付属品

○小ドライバー  
 ⊕中ドライバー  
 EPアダプター  
 ピンセット  
 針先ハケ  
 ヤマハクリーナー(クロスつき)  
 レコードクリーナー

●規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。



### ●トーンアーム梱包図

- ① ヘッドシェル付属品
- ② トーンアーム本体
- ③ ヘッドシェル(シュアーM75EM TYPE 2付)
- ④ スペアヘッドシェル
- ⑤ メインウエイト
- ⑥ サブウエイト
- ⑦ インサイドフォースキャンセラー・String  
カートリッジ取付ビス
- ⑧ ⊕小型ドライバー

## 特長・ご使用になる前に

### ●特長

- 駆動モーターに12極24スロット・ブラッシュレスDCサーボモーターを採用したダイレクトドライブ方式。低速でターンテーブルを直接駆動する理想的な形式のプレーヤーシステムです。
- アルミダイキャストのターンテーブルは精度の高い工作技術で仕上げられ、自重2kg、慣性能率が大きくワウフラッターを極限まで抑えています。
- 安定化電源を用い電源電圧の変動による影響をなくしています。さらに各回転数ごとに±3%の微調整をすることが可能で、ミラー式ストロボスコープにより正確な回転を確認できます。また、ワンタッチ操作のスピード切換スイッチはすぐれたタッチフィーリングをもっています。
- トーンアームは、亜鉛ダイキャストのジャイロジンバル

サポート方式軸受部をもつ高感度S字型アームです。

- カートリッジには定評あるシユアー M75EM TYPE 2を採用。0.2×0.7mil楕円針を装備し、特性・音質ともに高いクオリティーを実現しています。
- 新鮮なキャストール(栓)仕上げとアルミダイキャストによるキャビネットは共振を抑えた堅牢な構造をもっています。さらに、十分な肉厚の亚克力カバー、プレーヤー底部のパンチングメタル、特殊形状の大型インシュレーターやプレーヤー内部部品のフロートなど、外部からの有害な振動を抑えハウリングに強い設計になっています。
- 明るい新しい感覚の仕上げは、人間工学を追求した操作性とともに、オーディオの世界に大きく先行するヤマハならではのデザインです。

### ●次のことにご注意ください

- 電源電圧は定格の100ボルトでご使用ください。
- 直射日光や火気の強い場所、湿気の多い場所に設置することは避けてください。
- スピーカーシステムの近くや振動の多い場所に設置することは避けてください。床や台はなるべくしっかりした場所を選んで設置してください。
- 接続するオーディオアンプと並べて設置する場合は、YP-800を右側にするようにしてください。カートリッジの近くにアンプの電源トランスが位置すると誘導ハム(雑音)を生ずることがあります。
- 木製のキャビネットを清掃する場合は、柔らかい布で乾拭き

してください。シンナー系の溶剤などは使うことを避けてください。

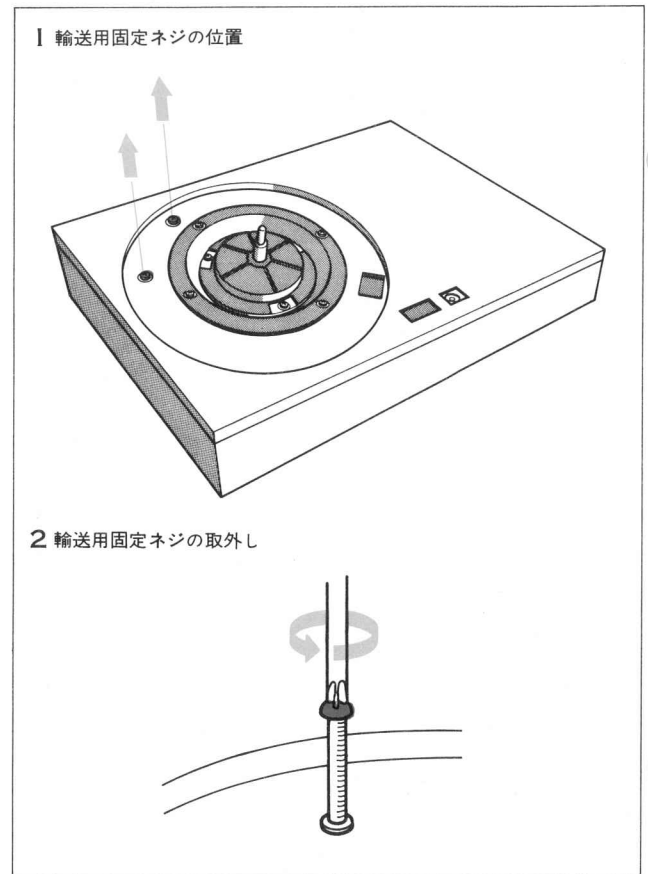
- アクリルの上蓋を清掃する場合は、付属のポリシングクロス、または同系の柔らかい布で乾拭きしてください。
- 7ページに説明するように水平に設置してご使用くださるようお願いいたします。
- お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意くださいようお願いいたします。

## プレーヤーの組立

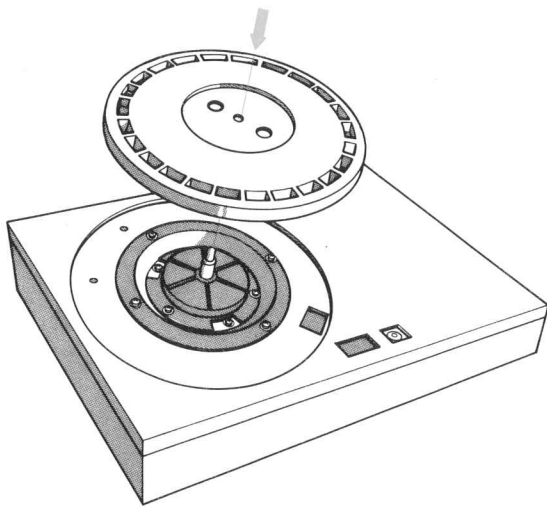
### ● 輸送用固定ネジの取外し

輸送中の振動や事故などから電源ブロックを保護するため、電源ブロックを輸送用固定ネジ(赤)で固定してあります。この2本の赤ネジをご使用になる前に必ず取外してください。また、取外したネジは引越しや修理依頼など再輸送のときに、再び固定する必要がありますので保存しておいてください。(図1)

(注)輸送用固定ネジを取外さずにご使用になると、電源トランスなどの振動がプレーヤーボードに伝わり音質を損ねる場合があります。



### 3 ターンテーブルの取付け

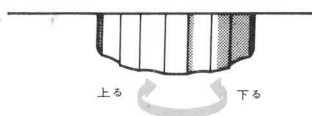


### ● ターンテーブルの取付け

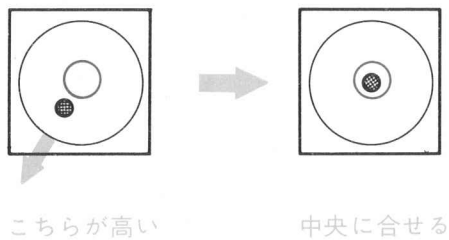
輸送用固定ネジを取外しましたら、ターンテーブルをセンターシャフトにはめてください。ターンテーブルの2つの穴に指を入れ、静かに取付けてください。(図3)

そのあと、ターンテーブルにゴムシートをかぶせます。

### 4 高さ調整



### 5 水準器



### ● 水平調整と水準器について

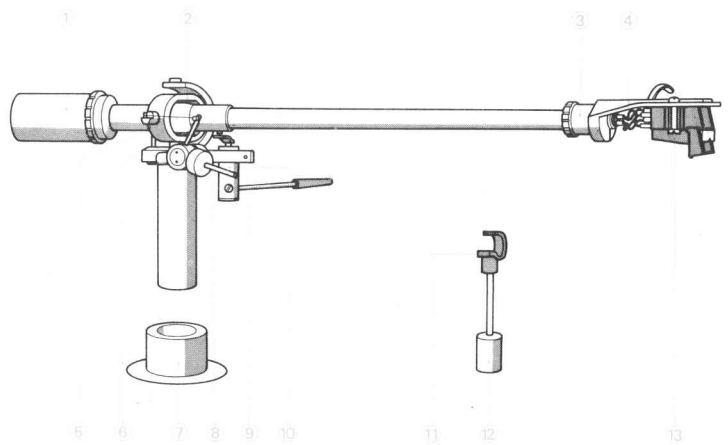
プレーヤーの設置で大切なことは、本体を水平に保つことです。水平でないと本来の高性能を発揮できない場合があります。プレーヤーボードの水準器を使い、必ず水平に設置するようにしてください。

キャビネット底面の4隅に外部振動を吸収するインシュレーターを兼ねた足があり、高さ調整機構が組込まれています。図4のように足を左右に回せば高さを調整できますので、水準器の気泡が赤い輪の中に入るよう微調整してください。気泡が赤い輪の中にあるときは本体は完全に水平を保っています。(図5)

# トーンアームの組立

## ● トーンアーム各部の名称

- ①メインウエイト (カウンターリング)
- ②トーンアーム軸受部
- ③ヘッドシェル・ロックナット
- ④ヘッドシェル
- ⑤インサイドフォースキャンセラー・ストリング
- ⑥インサイドフォースキャンセラー・ローラーアーム
- ⑦アームベース
- ⑧バイアス調整ウエイト
- ⑨カウンターバー
- ⑩アームリフター
- ⑪アームレスト
- ⑫アームレストベース
- ⑬カートリッジ (シュア-M75EM TYPE2)



## ● トーンアームの組立

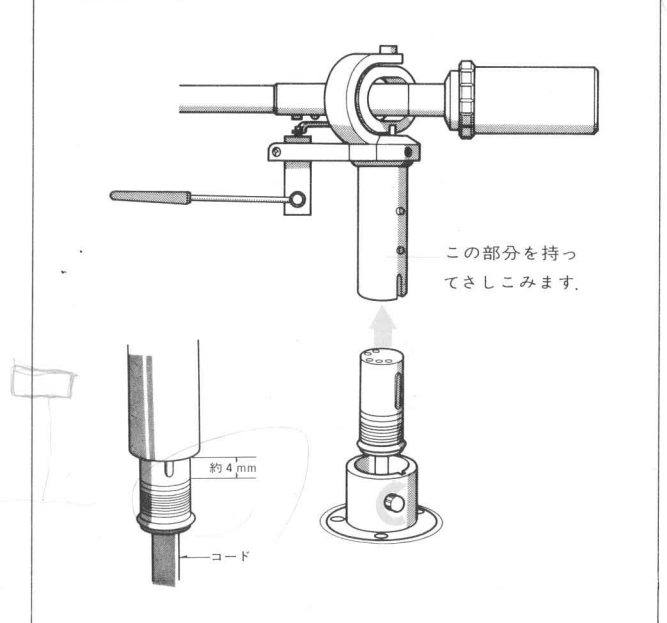
トーンアームは出荷時に各部分ごとに分解され、別梱包されています。プレーヤーボードにはアームベースとアームレストが固定され、またアームベースからはトーンアーム用出力コードが引出され仮固定されています。次のような手順に従い正しく組立ててください。

(注) アームには精密加工がなされていますので組立ての際無理な力を加えないようご注意ください。

① トーンアーム軸受部の下部にあるソケットに、仮固定されている出力コードのコンネクターを差込み接続します。軸受部の溝とコンネクターの突起を合わせ、奥までしっかり差込みます。(図6)

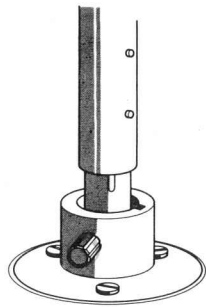
なお、出力コードの仮固定を外すと、コードがアームベースからプレーヤー内部に落ちやすいのでご注意ください。

### 6 軸受部の取付け





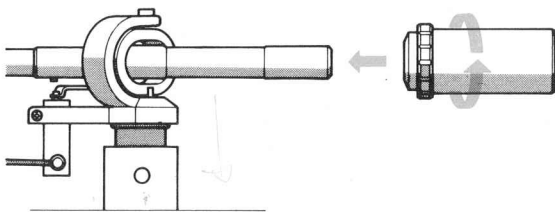
7 アームベースへの取付け



③軸受部シャフトの2つの突起とアームベースの溝を合わせてトーンアームを差込み、アームベースのネジで仮固定しておきます。(図7)

④トーンアームをアームレストに固定してください。

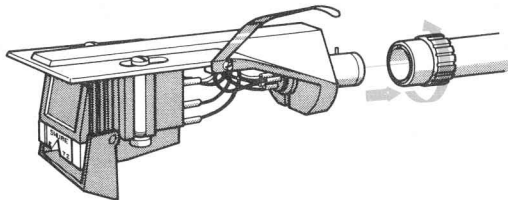
8 メインウエイトの取付け



⑤メインウエイトを矢印の方向に回しながらトーンアーム尾部に押し込みます。(図8)

メインウエイト内部のラセン溝とアーム尾部のストッパーがかみ合い、ウエイトはアーム正面から見て反時計方向(左)に回すと前へ、時計方向(右)に回すと後へスムーズに移動するようになります。

9 ヘッドシェルの取付け



⑥カートリッジ付きのヘッドシェルを、シェルの突起ピンを上にしてアーム先端のロックナット部へ差込み、ロックナットリングを回して固定します。(図9)

## トーンアームの調整

### ● トーンアームの調整

トーンアームの組立てが終了しましたら、高さ調整—バランス調整—針圧調整—インサイドフォースキャンセラーの調整の順にトーンアームの調整を行なってください。

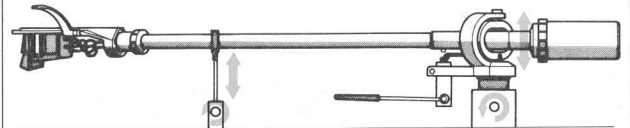
#### ■ トーンアームの高さ調整

- ①アームリフターレバーを下げ、カートリッジの針カバーを上げておきます。
  - ②ターンテーブルにレコードを乗せ、針先をレコード面上に置いてみます。トーンアームがレコード面と平行になるよう軸受部のシャフトを上下に調整し、平行がとれたらアームベースの固定ネジをしっかりと締めます。(図10)
  - ③トーンアームの高さ調整が終了しましたら、トーンアームをアームレストに戻し、アームがプレーヤーボードと平行になるようにアームレストの高さを調整してください。
- (注)この調整を行なうときには、針先とレコードを傷めないように慎重に操作してください。

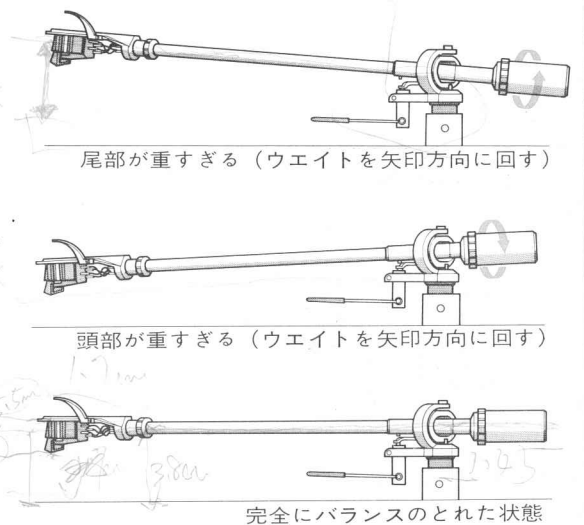
#### ■ トーンアームのバランス調整

- ①アームリフターレバーを下げたまま、カートリッジの針カバーを下げ、アームをアームレストから引出します。
- ②ヘッドシェルフィンガーから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下り、メインウエイト側が重ければ尾部が下ります。
- ③トーンアームが完全に水平になるように図11を参考にし、メインウエイトを前後させ調整します。メインウエイトはゆっくり回すようにしてください。
- ④バランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻します。

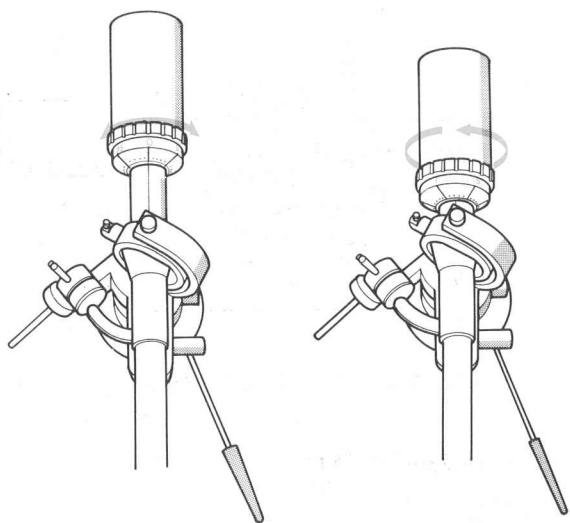
10 トーンアームの高さ調整



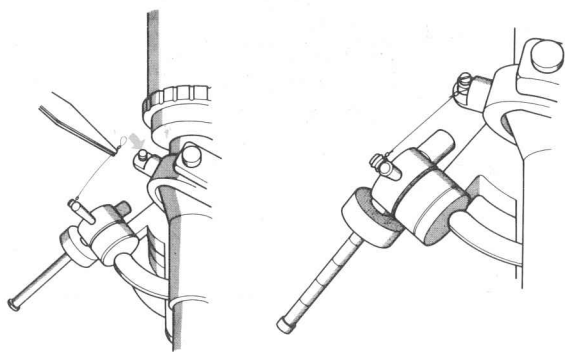
11 バランス調整



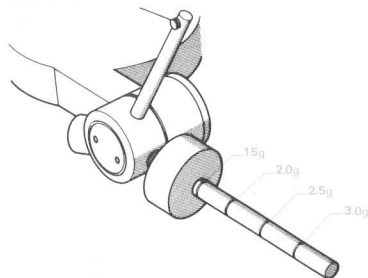
12 針圧の調整



13 インサイドフォースキャンセラー



14 バイアス調整ウエイト



### ■針圧調整

- ①水平バランスがとれた時のメインウエイトの位置を動かさないようにして、ウエイト前部のカウンターリングだけを回し、数字“0”をトーンアームの黒ラインに合わせてください。(図12)
- ②メインウエイト本体を回しますとカウンターリングも一緒に動きますので、メインウエイトを図13の矢印方向にゆっくり回し、適正針圧の値を黒ラインに合せます。ひと目盛0.1g、1回転で3gの針圧が得られます。付属カートリッジのシュア-M75EM TYPE 2は適正針圧1.25gですから、“1.2”と“1.3”の間をトーンアームの黒ラインに合せます。

針圧は軽すぎても重すぎても最良の再生音が得られませんのでご注意ください。

### ■インサイドフォースキャンセラーの調整

- ①付属のインサイドフォースキャンセラー・ストリングを袋から取出し、トーンアーム軸受部のシャフトのローラーとローラーアームのローラーをストリングでつなぎます。(図13)
- ②バイアス調整ウエイトの位置は針圧によって決まります。バイアス調整ウエイトを動かしてみるとバイアスレバーに刻まれた溝ごとに軽いクリックがあります。一番奥のクリックが1.0g、あとは0.5gステップで、一番手前のクリックが3.0gのときの位置です。付属カートリッジのシュア-M75EM TYPE 2は適正針圧1.25gですから、バイアス調整ウエイトは1gと1.5gの中間にセットします。(図14)

## トーンアームの調整

### ■アームリフターの使い方

アームリフターはレコード面に針を降ろすときや針を上げる  
ときなどに、直接ヘッドシェルに手をふれることなく、ト  
ーンアームを昇降させることができ、針やレコードを傷め  
ることがありません。

#### ①針を降ろすとき

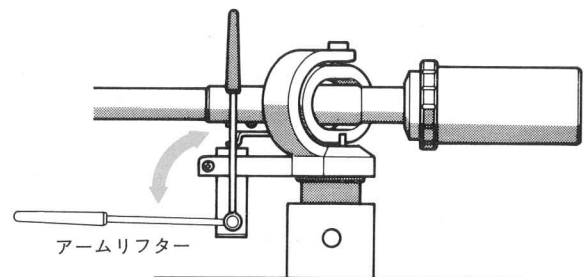
アームリフターレバーを上いっぱい上げておき、ト  
ーンアームの針先をレコード面の希望位置に合わせてから  
レバーを下げます。針先は油圧シリンダーによってゆっ  
くりとレコード面に降ります。(図15)

#### ②針を上げるとき

演奏中または演奏終了後は、レバーを上にあげれば、針  
先がレコード面から離れます。

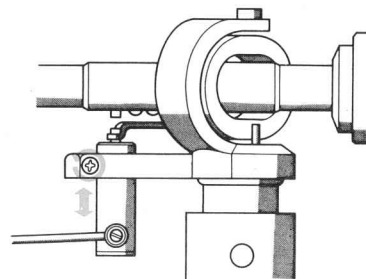
アームリフターレバーを上まであげたときに針先がレコー  
ド面から離れないあるいは離れすぎる場合には図16のネジ  
を少しゆるめ油圧シリンダーの高さを適切な位置に調整し  
ネジを締めてください。(このときネジは締め過ぎないよ  
うにします。)

15 アームリフターの使いかた



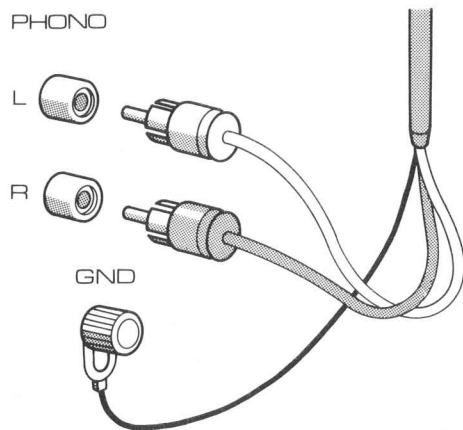
気温によりオイルの粘度が変化し多少降下速度が変わることがあります。

16 アームリフターの高さ調整



## アンプへの接続・スピード調整

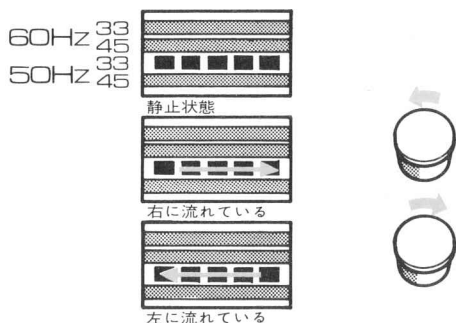
17 オーディオアンプへの接続



### ●オーディオアンプへの接続

- ①キャビネット背面から出ている出力コードを、L、Rを間違えないようにオーディオアンプの PHONO 端子に接続します。白がL(左)チャンネル、赤がR(右)チャンネルです。
- ②出力コードから出ている黒のアース線を、オーディオアンプの GND 端子に接続します。アンプによっては接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得られることがありますので、ハム雑音の少ない方を選んでください。(図17)
- ③接続するオーディオアンプに入力インピーダンス切換スイッチがある場合は、シユアー M75EM TYPE2 の出力インピーダンスは47kΩですから、一番近い値のポジションにセットしてください。
- ④プレーヤーの電源プラグをACコンセントかアンプの予備電源コンセントに接続します。

18 ストロボスコープとスピード調整ツマミ



### ●ターンテーブルのスピード調整

モーターは電源の電圧変動や周波数変動に対しても、正確な回転数を維持するよう電源部に電圧安定化回路を内蔵し電子速度制御を行なっています。従って、一度スピード調整ツマミ (SPEED CONTROL) を動かし、ストロボスコープを見てご使用地域の周波数に合った縞目が止まるように調整しておけば回転数の変動はありません。しかも、33 $\frac{1}{3}$ 回転と45回転はそれぞれ独立して調整でき、他方に影響を与えません。(図18)

なお、スピード調整ツマミにより回転数は±3%可変できますから、ピッチコントロールとしても使えます。

(注) ストロボスコープの縞目が時々ほんのわずかに流れて静止しない場合がありますが、これは電源周波数の変動によるもので故障ではありません。

## レコード演奏のしかた

### ●レコード演奏のしかた

- ①接続したオーディオアンプのFUNCTION(入力切換)スイッチをPHONOポジションにします。
- ②演奏するレコードに合った回転数のスピード切換スイッチ(33または45)を押すとターンテーブルが回転し始めます。(図20)
- ③ストロボスコープで回転を確認してください。
- ④アームリフターレバーを上まであげ、カートリッジの針カバーをあげてから、針先をレコードの演奏希望個所の上にもっていきレバーを静かに下げます。
- ⑤レコード演奏が終了または途中でやめるときは、アームリフターレバーを上まであげると針先はレコード面から離れますので、トーンアームをアームレストに戻しSTOPボタンを押してターンテーブルを停止させます。ターンテーブルは慣性でしばらく回り続けます。

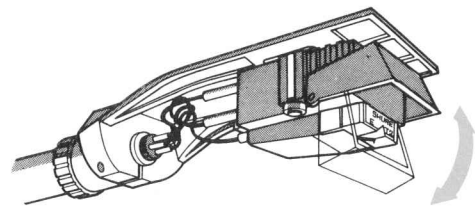
### ●他のカートリッジを使う場合

カートリッジを付属のシュアー M75EM TYPE 2から他の機種に交換する場合は、付属のスペアヘッドシェルに取り付けてご使用ください。この時忘れずにトーンアームの調整の項に従い、高さ調整-バランス調整-針圧調整-インサイドフォースキャンセラーの調整の順に調整し直してください。また、スペアシェル以外のヘッドシェルをご使用になる場合も同様です。

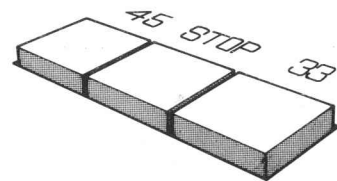
#### ■使用できるカートリッジの自重とサブウェイトの使い方

付属のスペアシェルをご使用いただきますと自重が4g~15gまでのカートリッジであれば、メインウェイトの調整だけで使用することができます。重さが13g~24gのカートリッジをご使用になるときは、付属のサブウェイトをトーンアーム尾部に取付け、トーンアームの調整の順に従って各部の調整を行なってください。(図21)

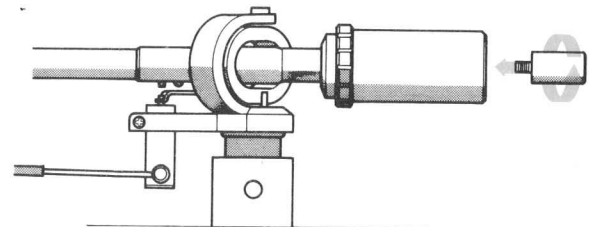
19 針カバーの操作



20 スピード切換スイッチ

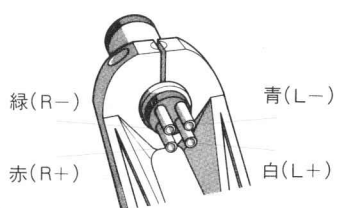
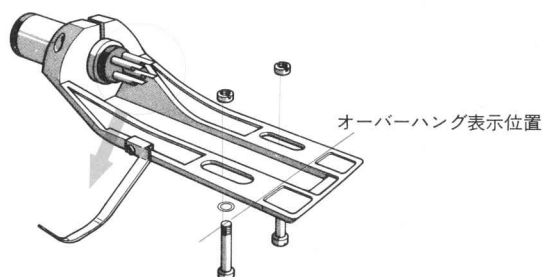


21 サブウェイトの取付け

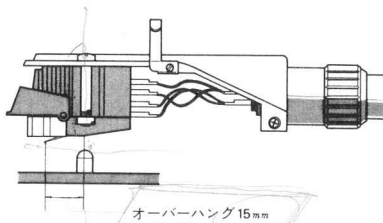


## 針先の交換

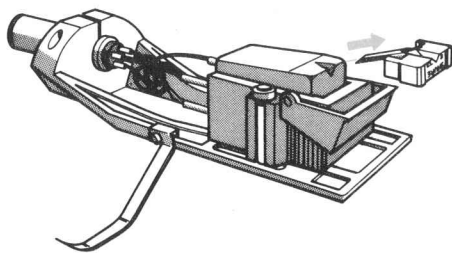
22 ヘッドシェル・リード線の接続



23 オーバーハング



24 針先の交換



### ■ヘッドシェルへの取付け

付属のスペアシェルに他のカートリッジを取付ける場合は、リード線の接続を間違えないようにカートリッジの各ピンに正しく接続してください。(図22)

また、トーンアームのオーバーハングは15mmに設計されていますので、センターシャフトの中心と針先の間が約15mmになるようにカートリッジを動かし調整してください。(図23) 尚オーバーハングは図22に表示されているように、ライン上に針先を合せますとオーバーハング15mmがとれます。

### ●針先の寿命と交換のしかた

針先はダイヤ針を使用しています。針先の寿命はご使用になるレコードの状態によって異なりますが、200～300時間が平均です。針先が磨耗すると音が歪んだりビリついたりする上レコードを傷める原因にもなりますので、針先は早めに交換してください。交換針はヤマハステレオ特約店に用意されていますので、YP-800用・シュア-N75ED TY-PE 2とご指定の上お買い求めください。

#### ■針先の交換

- ① トーンアームからヘッドシェルを除外します。
- ② 古い針先ホルダーを手前に引いて除外します。(図24)
- ③ 新しい針先を②と逆の方法でしっかり差込みます。
- ④ ヘッドシェルをトーンアームに取付けます。

(注) 針先の損傷及びカンチレバーの折損等は保証致しかねますので、ご使用上特にご注意ください。

## 故障と思われる時には……

本機をご使用中に正常に動作しなくなった時は、次の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは疑問の

点がございましたら、お買上げ店又は日本楽器各支店のオーディオ技術係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
スイッチを押してもターンテーブルが回らない	電源コードがACコンセントにしっかり差込まれていない	コンセントにしっかり差込み直す
ターンテーブルの回転が遅すぎる又は速すぎる	調速ずれ	調速つまみとストロボスコープで正しく調整する
調速つまみを調整してもストロボスコープの縞が止まらない	調速つまみの誤調整	調速つまみの回転数とストロボスコープの周波数と回転数を照合し再び調整する
	ストロボスコープの見間違い	ストロボスコープ横の表示により周波数と回転数を確認し再び調整する
カートリッジを交換した時など0バランスがとれない	カートリッジが重すぎる	サブウエイトを取付けて調整する
トーンアームが降りない	アームリフターがUPの位置になっている	アームリフターの使い方の項を参照し正しく操作する

針先をレコード面に降ろしても音が出ない	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせる
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげる
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプリアーパネルの接続端子を確認する
	アーム軸受部のコネクターと出力コードの接続不良	アーム軸受部をアームベースより外し確認する。
	カートリッジを交換した場合にトーンアームの高さが不相当でカートリッジの腹がレコード面に擦っている	トーンアームをカートリッジに合った高さに正しく調整する

再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”“パチ、パチ”という音がし、特に高音域がひずんで汚ない。	プレーヤーが水平でなく傾いている	水準器をみながら水平に設置する
	針先にホコリなどが付着している	針先を柔らかいハケなどできれいにする
	針先が磨耗している	針先を交換する
	レコード自体が傷んでいたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してみる
	針先が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直す
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみる
再生音がふるえたり、ハウリング（ポワーンという音）を起して聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてみる
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続する (接続しない方がいい場合もある)



## サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

### ■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りのヤマハ各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし短期間でおなおしすることができます。裏表紙のヤマハ各支店の住所と電話番号をご参照ください。

### ■サービスをご依頼なさる前に

ご使用中に“故障ではないか？”とお思いになる点がございましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんにおなおしになれる場合もあると思います。（ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます）

### ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（ステレオの具合をもう少しくわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしないですみます）

### ■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またステレオの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。（サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしな

ければならないようなご迷惑をおかけすることがありません）

### ■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちなお客様や留守勝ちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけおはやくご連絡くださるようお願い致します。（事前にご連絡をいただきませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください）

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記ヤマハ各支店オーディオ技術係にご連絡くださいますようお願い致します。

### ■各支店住所（オーディオサービス係）

本 社・〒430-91	浜松市中沢町10-1(オーディオサービス課) TEL (0534)61-1111(大代表)
東京本社・〒104	東京都中央区銀座7-9-18(パールビル内) TEL (03)572-3111
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)431-2151
北海道支店・〒060	札幌市中央区南三条西4-12(エイトビル内) TEL (011)281-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (0222)27-8511
広島支店・〒730	広島市紙屋町1-1-18 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

## 日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430-91・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(61)1111	神戸店	〒650・神戸市生田区元町通り2-188 TEL・078(321)1191
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	四国店	〒760・高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
渋谷店	〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(431)2151
池袋店	〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒803・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
相鉄店	〒220・横浜市西区南幸1-5-1/相鉄ジョイナス内 TEL・045(311)6361-4	北海道支店	〒060・札幌市中央区南三条西4-12/エイトビル内 TEL・011(281)6111
千葉店	〒280・千葉市中央4-2-1/まつだやビル内 TEL・0472(24)6111	仙台支店	〒980・仙台市1番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
梅田店	〒530・大阪市北区梅田1/阪神百貨店5階 TEL・06(345)4731	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ ・シンガポール・フィリピン